



NHK 教育テレビ

「週刊ボランティア」の取材が...

ついにこの鉄道サークルも全国ネットのテレビに登場した。

9月24日に取材を受け、10月7日の夜に放送されたこの番組。ご覧になった方は少ないかもしれないが(反響も少なかったが)伊藤さ

んと倉繁さんの私生活まで深く入り込んだ内容で、実に興味深いものがあります。

財団の事務局にまで取材攻勢はおよび、全体的には非常に分かり易く、かつ、興味津々の番組でした。

尚、リポーターのお姉さんの尾崎さんに声を掛けた人は何故かいなかった。

(ああ、もったいない)



どぶろく祭りに鉄道サークルも参加

10月14・15日に行なわれた、白川郷どぶろく祭りに鉄道サークルの精鋭6名も参加した。

太鼓引きボランティアで、当初は“ヨソモンが参加しとる”という感じで双方ヨソヨソしかったが、最後には“綱引き状態”“車止め状態”“電信柱くりつけ”の洗礼を受けやっと地元の方の仲間入りができたのであった。

むろん、この後に飲んだどぶろく(別名わんこ酒)がうまかったのは言うまでもない。

翌日は合掌文化館を清掃した後、大白川の露天風呂へ入りに行く。眼前の湖と紅葉を眺めつつ、久しぶりになにもかも忘れ去り、ただボーゼンと風呂にたたずんでいたのがあった。



サークル報でもお知らせした様に、8月6・7日大井川鉄道家山駅・千頭駅構内でオハニ36とヨ5000の補修と清掃ボランティアが行われた。

(C12・スハフ43は夏休みの最中のこともあり、大井川鉄道に貸し出し。)

作業としては、オハニが車両の傷んでいる箇所をチェック・床リノリウムの補修と車内の清掃、それと初めての試みとして車体(外板)のワックス掛け。

車掌車は、車内の清掃と床のワックス掛けが今回のメニューで、6日が8人、7日が11人参加された。

6日は午後1時30分作業スタート。

まずはオハニの外板清掃から。水を掛けながらモップ拭きをし、続いてワックスを塗る。

水道から離れた場所に客車が置いてあり、最初はバケツリレーで車体に水を掛けることを考えたが、余りにも疲れるので、ホースの届く位置まで、人海戦術で車両を移動することにした。

せえ～の、のかけ声と共に客車を押す。始めは重い、動き出すと以外に軽い。

参加者全員、初めての貴重な体験だった。

ワックス掛けもまた初めてのことで、車と異なり垂直な面ばかりで、勝手が違う。

気温が高く、塗る面積も多いのでかなりの運動量。

たちまち汗が吹き出てくる。



人力での客車の移動



客車外板のワックス掛け(自動車用！)

外板が熱く焼けているため、ワックスがすぐに白く乾いてしまい、拭き取り用の雑巾を片手にしての作業になった。

車内は各部のチェックの後、浮いているリノリウムの補修に入る。

作業箇所は

- ・客室入り口の扉付近

- ・ボルスターピンの蓋の周囲
- ・SG調節弁のハッチ廻り
- ・デッキのバルブ点検蓋周囲が主な所。

方法は3月の時と同様、場所に応じて固定し、その後充填剤を注入していく。

作業環境はと言えば、まどは開いているが、風もなく蒸し風呂状態で、こちら汗まみれになっての作業である。

作業開始から1時間程経った頃突然の雨。早くもワックスの効果を見ることができた。

見事に水をはじいている！
(当然のことなのだが...)

休憩のあと、ヨ5000組は千頭に移動。

車掌車は車内を清掃した後、床に木床用のワックス掛けをする。

車内はペンキの浮き、剥がれ等傷みも目立ち、こちら早々に手を加えなければ、と実感した。

家山で客車組と合流し、午後6時過ぎ、6日の作業は終了。

7日は午前9時から作業開始。からっと晴れ上がった空からは、痛い程の夏の太陽が照りつけ、気温はすでに30を突破。

バテきらない様に、1時間程作業をしては15～20分のティーブレイク。そしてまた作業のパターンで進んでいく。

6日と同様、客車の移動からスタート。そしてやり残した外板のワックス掛けとリノリウム等の補修作業にはいる。

続いて“ふとんたたき”と荷物室の掃除と整理を行った。

たっぷり溜まった一年分の汚れをきれいに落とし、床は棧の間を車掌車と同じくワックス掛けをした。

干していたシートの埃をはらい、荷物室の備品を室内に戻せば、今回の作業メニューは、す



出入口の床リノリウムの補修



8月6日のオールスタッフ

べて消化。

綺麗になった車内と光沢のある車体を見て、あ～終わった。と、ほっと力が抜けた。

客車を元の場所に戻し、午後4時過ぎ、酷暑との戦いとなった8月の補修は、無事終了した。

当初予定していたオハニ36の白熱灯化の検討と天井部分の調査は、時間等の都合によ

り、今回は見送った。(次回以降に実施の予定。)

*来年も今年に引き続き、トラストレインの補修ボランティアを行う予定です。

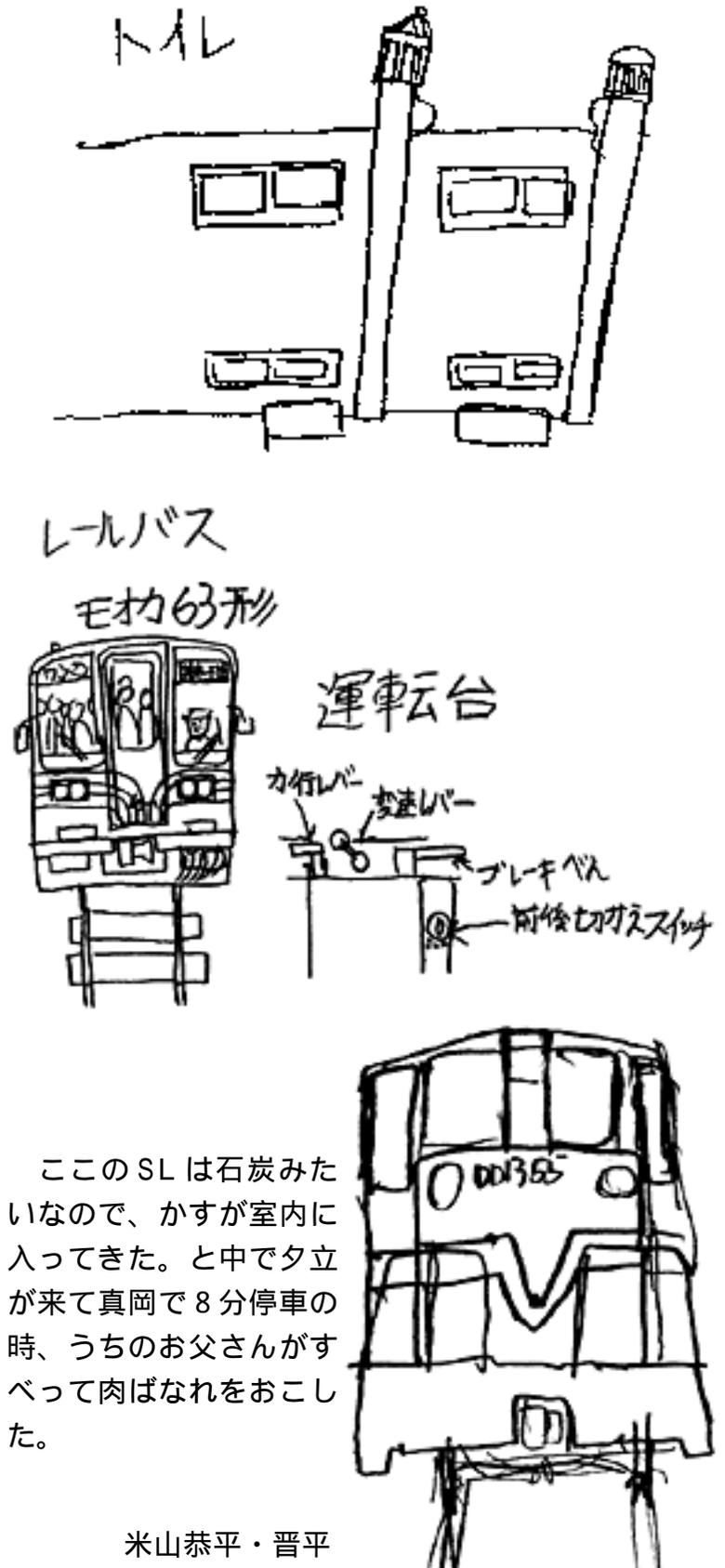
日程、内容等詳細が決まりましたら、会報等でお知らせします。

真岡鐵道のこと

真岡鐵道のSLはC12 66。トラストトレインのC12と同じ。

まだ今年に走り始めたばかり。もて木で見たビデオでよくわかったし、ここはレールバスが走っている。このレールバスは四角のライトに見えるけど少し丸いライトが中に入ってる。木のトンネルみたいのがあったりして、田んぼはかりいれをして、してないとも黄色くなっていて、他の畑もあった。このへんは下水が通ってないみたいで、トイレのへんからトイレのにおいをだすかん気ぼうがいっぱい。でもそれぞれ形がちがう。

レールバスも半運転台なので前がよく見える。帰りにSLに乗ったけど客車は50系を茶にただけなのでちっとも客車に乗った気がしない。それは、なんか113系に乗ってるみたいだから。自動ドアなのも変でふだんと変わらない。



ここのSLは石炭みたいなので、かすが室内に入ってきた。と中で夕立が来て真岡で8分停車の時、うちのお父さんがすべって肉ばなれをおこした。

米山恭平・晋平



地元関係者との懇親会

前頁での米山さんの息子さんたちの原稿にありましたように、去る9月10日、真岡鐵道の見学会が催されました。

詳しい報告は、トラスト「報」の半田さんの記事をご覧ください。



まだ新品同様にピカピカのC12



事務局Y氏必見の喫茶店
「赤い電車」
(真岡駅より車で3分)

鉄道サークルの課題 白井 昭

鉄道サークルがトラストトレインの保存に努力しているのは立派なことであり、ナショナルトラスト活動としては世界でも数少ない例である。

しかし他の活動については基本的に改善が必要である。

鉄道友の会は趣味であるから遊んでいても自由であるが、トラストのサークルである以上本来のオリジナルな保存活動、研究や発見をもっと活発化したい。

会員確保上も乗り歩きや楽しむことも必要だが、活動の主体は本来の使命においてほしい。

先年、阪神国道の名車200形が解体されてしまったが、関

西の方々には危険予知と当局へのアプローチが十分だったか、貴重なものが失われ誠に残念であった。

遊び中心ならば同人グループで、レポートが遠足の作文なみでも自由であろう。

会誌への報告を見ると本格的な研究成果は半分位であり、これでは良い論文は他へ行ってしまふ。

今や調査、保存と活用というトラストの原点を思い出し、原点に向かって活動をリードすることが課題となっている。活動の手法も保存したら？の無責任ではなく、費用、手段など体系的、現実的な考察と活動が求められる。

当サークルは若いので遊びたいのは分かるが、そろそろ身を固めるときが来ていると思われる。

当サークルは他の団体と違ってトラストという強い柱があるのだから、キャンペーンや活動にもより影響力を行使できる立場にある。

宣伝的や圧力的になつてはならないが、適正な手法も町並み活動などからノウハウが得られる立場にあり、原点への見直しを望みたい。

なすべきことは多い、今後に向かって萎縮することなく研究活動に取り組むことを期待したい。

トラストトレイン ボランティアのお知らせ

！！ 本年最終運転日！！

運転日 11月26日(土)

集合場所 大井川鉄道新金谷駅

集合時間 午前10時30分

作業内容

通常通りのボランティア作業(客車内清掃とSL磨きおよび添乗)とともに、今年最後の運転となるため、オハニ36荷物室内など冬ごもりに備える。

おまけ・・・

運転日当日は、横綱改め親方とその妻(おかみさん)が参加の予定なので、帰りの静岡発 19:35分の列車内でささやかに「プライダルパーティー

いちろくご」を行いたいと思います。関西方面の方の参加も大歓迎であります。泊まり希望者は申し出ること。若干名なら何とかできるでしょう。

なお、上記トラストトレインボランティアおよび「プライダルパーティーインいちろくご」(特に泊まり希望者)は事前に必ず財団事務所まで申込みのこと。

鉄道サークル今後の予定

11月下旬 会報発行(11月号)

12月10日(土) 忘年会

1月14日(土)～16日(月)

厳冬の白川郷合掌文化館雪下ろしツアー！！

3月?日(?)

トラストトレイン補修ボランティア

D51トップナンバー

浅田 朋彦（群馬県前橋市）

思い出の 写真館

25

一九七一年八月、高校受験を控えた夏休み、本当ならばSLを追っかけるなどしていられず、受験勉強をしなければならぬ頃、親の理解により東北のSLを追う旅に出かけた。半年間にいくつもの路線からSLが続々と消えていくという時代だった。今、行っておかなければという焦りの気持ちと受験勉強の両立に悩んだSLファンが多かったに違いない。

風前の灯の花輪線の86、奥羽線のD51、C61、五能線の86、阿仁合線のC11（これは運休で空振り）を追っかける旅だった。

奥羽線はすでにポールが林立し架線が張られ、末期的症状の中、D51、C61が最後の任に付いていた。大館機関区はその基地。SL全盛期を知らない私にとって、この時のこの区は活況を呈していたと言つていくくらいだった。転車台のまわりには扇状にD51、C61が休息していた。C11は入れ換えに元気が良かった。86もカン高い汽笛を鳴らしていた。

そんな中、異彩を放っていたのがD51のトップナンバーだった。この辺に生息していることは知っていたが、まさか会えるとは思わなかった。誇らしそうにひかり輝き、どことなく風格と余裕があり、万能D51の長兄として、悠然としていた。私は写真を撮るのを忘れてD511をただ眺めていた。

それから二カ月後、奥羽本線には赤い電機がさっそうと走っていた。



いんぷおめいしょん

あの鉄道ぎらいの白川君がまた本を出しました

その名も「全国保存鉄道(II)」



お詫び

総会に関しまして、先日、はがきにてメンバーのみなさんに、延期のお知らせをいたしました。が、定例会、見学会、トラストトレインボランティア等の折りに11月12日に日本工業大学で行う旨お知らせしてきた他には、前もって会報等で正式に告知をしておりませんでした。大変ご迷惑をおかけしたことを深くお詫びいたします。

なお、延期日については現在のところ全く未定ですが、本年度中には行いたいと考えております。

鉄道サークルも10周年を迎えており、この機会に鉄道サークルそのものをもう一度見直す絶好の機会でもあります。

私も事務局を担当して10年、すなわち鉄道サークル発足当時

好評だった一冊目の「全国保存鉄道」に続く第二弾がよいよ発売となりました。

前回発売後に加わったものや、現役の歴史的車両、歴史的鉄道施設・建造物さらには遊戯施設などのミニ蒸気機関車までも収録。そして巻末には白川君の血と汗と涙の結晶でもある「全国保存車両リスト」が掲載されています。

鉄道サークルの皆さんの本棚にも是非一冊どうぞ。

からということになるのですが、あまりに長く同じ人間が担当してはやはりまずいと思われまますので、今年度の総会をもって隠居したいと考えております。

そのことも含め、事務局担当者の選出、幹事制度の見直しとともに鉄道サークルそのものの組織刷新、ボランティア活動を中心に今まで培われてきたものを検討し、将来的なことも含め体系化していけたらと思います。

もちろんこれらは一部の人達だけでは到底なしうるものではありません。メンバー全員が知恵を出し合って成し遂げてゆくものです。

どうぞいい機会ですので、感じたままのご意見、ご提言などをお寄せください。

週刊ボランティアのビデオ

表紙でも紹介しましたが、NHK教育テレビ「週刊ボランティア」で我が鉄道サークルが紹介されました。

時間の都合などでご覧になれなかった方も多いと思います。

そこで、ご希望の方にVHSのコピーを実費程度で配布することにしました。

ご希望の方は1,500円分の郵便為替をサークルのビデオ担当まで送ってください。

尚、この機会に「白川郷合掌文化館～よみがえった旧松井家～」のビデオも是非どうぞ。

(3,000円です、よろしく)

編集後記 今回の会報は画期的である。なぜかといえば、すべてマッキントッシュで制作したからである。実際にマックを操ったのは田中1号である。以下、制作者にサークル会報始まって以来の快挙について、また、苦労話など述べてもらうことにしよう...

どうも、今回の会報を編集した田中1号です。

今回は、初めての試みとしてマックの画面上だけで編集作業を行ってみました。これを作成しているソフトの使い方を覚えながらの作業で、試行錯誤の繰り返しの毎日でした。

今までは、ワープロで打ちだした原稿に写真などを貼り付けていましたが、今回はすべてデジタルのデータだけで処理されています。まだ見にくいところもあるかもしれませんが、よろしくお願ひします。ご意見、ご希望もお待ちしています。